

沖縄 プロフェSSIONALS

このコーナーでは、それぞれの仕事を通して、よりよい沖縄、暮らしの創造を目指すプロフェSSIONALな仕事人を取り上げます。

さくがわクリニック

院長 佐久川貴行さん

長引く痛みへの新療法を提供

今年9月、ゆいレール浦添前田駅から徒歩4分の場所に開業した「さくがわクリニック」。長引く痛みに悩む患者さんに、沖縄初上陸の新しい治療法である「運動器カテーテル療法」を提供しています。佐久川貴行院長(39)に、「モヤモヤ血管」をキーワードに、同療法の仕組み

を解説してもらいました。

五十肩、テニス肘・ゴルフ肘、ヘバーデン結節、膝の変形、スポーツなどによる長引く痛みが3カ月以上続いている。「その原因は、『モヤモヤ血管』であることが多い」と佐久川院長は話します。

モヤモヤ血管とは聞き慣れない言葉ですが、話を聞いてみると「先述の体の部位に損傷や炎症が起きると、修復の過程で異常な新生血管が増加。いびつな構造でかすんだように見えるため「モヤモヤ血管」と呼ばれているのだそう。「モヤモヤ血管の近くには、病的な神経が増殖。その神経が痛み信号を伝えることで、長引く痛みが生じると考えられています」と解説します。

運動器カテーテル療法は、このモヤモヤ血管を消すことで痛みを改善する仕組み。事前に超音波検査で異常血管の状況を確認しますが、「長引く痛みが

ある場合、ほとんどモヤモヤ血管が見えます」と佐久川院長。「治療は局所麻酔を施した手首や足の付根から直径1ミリの細い管(カテーテル)を入れ、血管を經由して患部に到達させ、モヤモヤ血管を詰める薬剤を流します。血管には神経がないため痛みも感じず、日帰りでの治療できます。ほとんどのケースは1度の治療で済み、その後1〜2カ月ほど痛みが改善していくといえます。

放射線医として、県内外の病院で全身の血管造影やカテーテル療法、画像診断の専門家として活躍してきた佐久川院長。新しい治療法である運動器カテーテル治療を学ぶため、開発者・奥野祐次医師のクリニックで診療に携わり、痛みの改善につながった多くのケースを目の当たりにし、開院を決意しました。

「沖縄にも長引く痛みに悩む患者さんが多くいらっしゃいます。患者さんに寄り添い、改善に向けて共に歩んでいけるよう、日々精進していきたいと思っています」

(第1・3週に掲載)

浦添市前田1-11-1階

☎098-877-5577

※予約制。自費診療(10割負担)。12月11日(土)まで「レキオを見た」で初診料半額の3850円

